



2010年度シンポジウム報告

健診における メンタルヘルス測定と 予防対策の方向性

社団法人 日本健康倶楽部主催の「2010年度シンポジウム 健診におけるメンタルヘルス測定と予防対策の方向性」が3月4日、東京・平河町の都市センターホテルで開催されました。

健診時に実施されるメンタルヘルス測定から、うつ病対策としてのメンタルヘルス対策が可能であるのか、その進むべき道は、どこにあるのか。について、さまざまな立場の方々の講演、レクチャーなどがありました。

基調講演

「職域におけるメンタルヘルスの評価 ストレス測定とうつ病のスクリーニング」

山内慶太氏

慶應義塾大学看護医療学部/
大学院健康マネジメント研究科 教授

「職場におけるメンタルヘルス対策検討会報告書」、「今後の職場における安全衛生対策について」といった最近の動向の報告があり、うつ病のスクリーニング(CES-D)の使用例が紹介されました。このスクリーニングは自記入式評定尺度で、評価にバラツキが出ることを示し、CES-Dの検査結果と留意点も紹介されました。

パネルディスカッション

「健診から職域のメンタルヘルス対策は 何が出来るか」

コーディネーターの井原一成氏(東邦大学社会医学講座公衆衛生学分野講師)より、最近の職域のメンタルヘルスに関する施策検討の論点について説明があり、職場におけるメンタルヘルス対策の新たな枠組みに焦点を当てて、パネルディスカッションを進めていくとの紹介がありました。その後、4名のパネリストによる職域での実践活動についてショートレクチャーが行われました。

1 産業医の立場から

福田 洋氏

順天堂大学医学部総合診療科 准教授

モグラたたきの施策ではなく、元気に働ける風土を目指して、復職支援からポピュレーションアプローチへ、3次予防から2次予防、1次予防へと変化していることを示し、うつチェック、ストレス測定の必要性について語られました。

2 人事・労務の立場から

村上 智氏

ライオン株式会社人事部 副主席部員

「ライオン株式会社の健康管理体制について」と題して、創業120年目を迎える同社が社是とする「愛の精神の実践」に基づき、従業員の健康は会社にとって最大の財産であるとの健康管理基本方針についての話がありました。

3 保健師の立場から

花田 佳重氏

ワコール健康保険組合健康開発チーム チーフ保健師

被保険者の8割が女性で、女性の約7割が販売職の会社であり、社是の相互信頼の経営に基づいてメンタルヘルスのケアを実施していることを紹介。社内外の相談対応を充実させ、1次予防の重視について例示されました。

4 臨床心理士の立場から

森崎美奈子氏

東京産業保健推進センター・千葉産業保健推進センター 基幹相談員

ストレスレベルが増強している中、不調労働者の早期発見・対応の重要性を示し、1次予防としてストレスへの気づきと抵抗力が大切で、そのためにストレスチェックを上手に活かすことが必要であることを紹介しました。

総合討論

ショートレクチャーを受けて、基調講演者の山内氏と4名のパネリストによる総合討論が行われ、井原氏の司会のもと、講演者同士の意見の交換に引き続き、フロアの参加者との質疑応答も盛んに行われました。

うつのスクリーニングとストレスチェックの両方を見ていくことが1次予防のために重要であり、本人の自覚を促すとともに、個人と職場に対してフィードバックするための方策などについても話し合われました。